第５回全国学生ボランティアフォーラム報告

２０１７年３月３日から２泊３日で東京代々木のオリンピックセンターで第５回全国学生ボランティアフォーラムが開催され（主催：国立青少年教育振興機構）、全国から７００名近くの大学生・高校生が集い、「ボランティア」をキーワードに交流、学び合い、多くのつながりが育まれた。国際、環境、福祉、教育、地域づくり、平和・人権、災害の各分野の、ボランティア活動をつなぎ、その社会性や活動価値を確立していこうと言う運動である。

＜オープニングセッションの様子＞

熊本からは、熊本大学、県立大学、学園大学、ルーテル学院大学から学生の参加があり、分科会活動では県立大学の戸田千晴さんと千葉大学の田代智也くん（熊本出身）がコーディネーターとなり熊本地震を事例に、災害時の学生ボランティアの可能性を討論した。当事業団は、アクションマーケットに出展し、「国際ボランティアワークキャンプ」「グローバルワークキャンプ」の活動紹介、広報を行なった。それぞれ、高校生（ボラキャン）と大学生（グロキャン）を対象に、自ら課題をみつけ、ワークキャンプを企画、運営していくところが特徴である。

本フォーラムは、３日間のプログラムの中に、熊本での２つのワークキャンプにつないでいきたい多くの学びがあった。

クロージングシンポジウムでは、初回ボラキャンから指導いただいている昭和女子大学コミュニティサービスラーニングセンターの興梠寛氏がコーディネーターとなり、「おいでよ！カントリーサイドへ～“いなか”は未来への宝石箱～」をテーマに、３人の宝探しの“達人”（小松圭子氏～有限会社はたやま夢楽代表取締役、平賀研也氏～長野県立長野図書館長、渡部清花氏～東京大学大学院総合文化研究科修士１年・WEL gee 共同代表）が、学生の未来を育むコミュニティの姿について、熱く語り合った。現代社会の価値観の上に敷かれたレールを走ることを強いられる学生たちは、ストレスを感じ、人と異なることに恐怖すら覚えることがある。貧富の格差の増大、子供の貧困、限界集落を作り出していく。世界に目を向けると紛争、難民…　多くの問題が山積している。こんな問題社会で暮らす学生たちが、明るい未来に希望を持ち、時代を変えていくには、人とのつながり～やさしいコミュニティが大事である。そして、その大事なものは、時代が切り捨てていこうとしている辺境や社会の片隅に置かれた人たち側にあるのではなかろうか。興梠氏がアメリカ放浪時代に差別を受けた時、助けてくれたのは同じくマイノリティの人たちだった、と言う。祖国を追われた難民こそが真の地球市民であり、彼らの声なき声を地球の表舞台に出していくために活動している人がいる。田舎には、今も変わらない風景があり、誰の心にも懐かしさを伝える何かがある。時代が経っても変わらないもの、“なつかしい未来”が合言葉である。私たちは、見失いがちなものにしっかりと目を向け、社会課題へのアクションを起こさねばならない。

＜クロージングシンポジウムの様子＞

2017 年、ボラキャン、グロキャンに参加してくれる学生諸君と一緒に“Make　A　difference！”の風をおこしたい。

＜分科会活動の様子＞

＜全国学生ボランティア交流見本市の様子＞

＊第 12 回ボランティアワークキャンプ in ASO（高校生）
開催予定：2017 年８月８日～10 日
＊第５回グローバルワークキャンプ in ASO（大学生）
開催予定：2017 年８月 15 日～18 日
（会場は、共に、国立阿蘇青少年交流の家）